日刊 動労千葉

86. 8. 1

No.2308

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

国労はつぶされていいのか

『労使共同宣言』では組織も雇用も絶対に守れない

たたかう全国潮流をつくりあげよう

国労第四九回全国定期大会が　七月二十二日から四日間　千葉市において開催され執行部の「大胆な妥協」＝屈服路線を採択し閉幕したが「国労は総評指導に基づいて労使共同宣言の締結に応じる」ことを執行部は画策している。「労使共同宣言」締結は、国労を解体し、分割・民営化を認めてしまうことであって、執行部のいう「雇用確保」「組織を守る」ことにどうしてなるのか。これ以上の後退は許されない。屈服指導部をのりこえ、実力反撃へ起とう！

「大胆な妥協」「中闘一任」で国労と組合員は守れない

国労大会において山崎委員長は、あいさつの中で「雇用を守ることを最優先に大胆な妥協もありうる。戦術判断は中央闘争委員会に一任させてくれ」と発言した。雇用安定協約を結ぶために「労使共同宣言」を締結をするということである。

国鉄労働者の三人に一人の首を切り、国鉄労働運動を最後的に解体するためにストライキ権を放棄し、合理化―余剰人員対策推進する「労使共同宣言」を締結しようというのだ。

この大会前に武藤前委員長が各地本委員長にあてた書簡は「国労も労使共同宣言の調印に踏み切るべきだ」と述べている。さらに「組織を守り職場を守るために結ぶ『共同宣言』は、一つの道具でしかない」といい「社会党・総評に指導を」とゲタを預けてしまえといっているのだ。

こんな小手先の方針が通用する訳がない。当局は当然にも「国労の方針では労使共同宣言は調印できない」といっている。

動労組合員の現実をみてみよ

国労は、雇用安定協約ほしさに〝三ない運動〟を中止して以降、当局・動労・鉄労になめられ「国労では雇用が守れない」と動労・鉄労・真国労の組織破壊攻撃にほんろうされながらも国労組合員は職場で苦闘しながら頑張ってきた。

この主体である国鉄労働者の決起を忘れ、闘うことによって勝利することを確信することもできぬ国労中央の裏切りは動労革マル・松崎の道へ国労組合員を追いこむことだ。動労の現実をみてみよ。三本柱に応じれば新会社にのこれると派遣に応じ、派遣から帰れば待っていたのは配転・配置がえで、元の職場や仲間から引き離され、自ら国鉄を辞めていくように組合がしむける。派遣から帰れる者はまだいい「そのまま広域配転でのこれ」とまで言われ「自殺」に追いこまれた組合員がいる。この一年半で六一人もの国鉄労働者が命を失った現実をなぜみようとしないのか。さらに、社会党・総評にゲタを預けてしまって展望があるというのか。「不安と動揺」におちいっているのは国労中央だけではないか。

国鉄労働者が闘わないでどうして勝利できようか！

組合員は、ハラのすわった一大反撃の方針確立を本当に望んでいる。

中曽根・杉浦の最も恐れているストライキでたたかおうではないか！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！